

私たちの日常を大きく変えた  
新型コロナウイルス感染症



PCR検査



PCRステーション (大分城址公園内)



ヤルを開設し、発熱外来専門医療機関を市内に設置するなど医療・検査体制を強化しました。また、昨年5月には大分城址公園内にPCRステーションを新設しました。

**市長** まず大事だと考えたのは、店舗家賃の補助をなんとかこの状況をしのいでもらおうということ。売上が2分の1以下に減少した事業者に最大で24万円の家賃補助をしました。また、感染拡大防止のためのアクリル板設置などさまざまな設備投資への補助金も支給することにしました。

**賀来** 非常に素晴らしいですね。新型コロナウイルス感染症は「いかに安全に検査ができるか」が重要なポイントです。大分城址公園は広いですし、建物もテントではなくしっかりとした構造で、さらにドライブスルー方式です。ですから、検査をする側も受ける側も安心できる「安全な検査体制」がしっかりとできています。

**財前** それから、個人に向けた支援というのもありましたよね。

**財前** 今お話にありました市のPCRステーションですが、事前に視察していただきました。賀来先生、ご覧になっていかがでしたか。

**市長** 新型コロナウイルス感染症は雇用にも影響を及ぼしました。親の収入が減ってお子さんが学校に行けなくなるといったことも起こります。そこで、就学援助の要件緩和や奨学金の拡充などさまざまな援助を行いました。

**財前** 続いて市長にお伺いします。市がこれまでに取り組んできた、経済や生活への支援策について教えてください。

また、昨年5月には国の施策で一人10万円の特別定額給付金の給付がありました。給付の事務は自治体で行うということで、48万市民に少しでも早く届けられるように取り組みました。結果として、比較的早いタイミングでほとんどの方にお届けすることができました。

**感染症の専門家に聞く、**  
これからのこととして、  
持つておくべき心構えとは

はなくなりません。でも逆に個人の病気ではないということは、誰でもかかる可能性があるわけです。

**財前** 賀来先生。これからのことと、気になるワクチンの動向について教えてください。

ですから、「お互いに思いやる」とことが感染予防の基本だと思います。お互いを思いやる気持ちをもどくくらいみんながしっかりと、落ち着いて、長くもっていけるかだと思います。

**賀来** 昨年末からいくつかの国でワクチン接種が始まりました。日本でも2月以降にワクチン接種が始まりますが、全国民に行き渡るまでにはかなりの日数がかかります。ですので、今年いっぱいには新型コロナウイルス感染症と向き合っていく覚悟やすぐには収まらないという思いをもつことが大切です。長く持続して対応できるような心の余裕をもって少し肩の力を抜いて、100%でなくても「できるだけ手洗いとマスク着用を心掛けていこう」という姿勢でいていただきたいです。

**市長** 対策をしていますが、誰でも陽性になる可能性があります。陽性になった方に対する中傷やデマは重大な人権侵害です。そのようなことがない社会を、みんなで作っていきたいと思います。

**財前** マスクの着用、そして手洗いというのは本当に基本的なことですが、この基本を忘れずにしっかりと行っていきたいですね。

**賀来** 未知なる感染症ですし、感染症はうつっていくので個人の病気で

この対談の様子は、大分市公式動画チャンネル「いいやん!大分」でご覧いただけます。



▲こちらからご覧ください。

※1月2日放送「大分市テレビ広報番組」要旨  
※掲載内容は、2年12月20日時点のものです。